



神戸医協ニュース

549

2010. 3. 1

発行／神戸医師協同組合 発行人／小柴 孝夫 〒651-0067 神戸市中央区神若通3-2-15 電話(078)241-8991代 http://www.kobe-ishikyo.or.jp



紙上フォト・ギャラリー

俺を撮るのか？

震災後、神戸市が東洋ナッツに指導を受けて、魚崎南町の運河辺りの約300mの散歩道にアーモンドを植えました。まだ木の高さが低く、3月下旬には目白(鶯と間違える人がいます)が目の高さに飛びかいます。

撮影／岡野 安雅(神戸市東灘区)

アメリカの医療制度改革に学ぶ

理事 木村 耕平

昨年、アメリカ合衆国史上初めてのアフリカ系の大統領として華々しくスタートしたオバマ大統領も、各種公約実現のため苦戦を強いられています。

特に無保険者が4,600万人といわれる医療制度改革はクリントン政権以来の悲願でありました。しかし、先日の上院補欠選挙で民主党は議席を確保できず、安定多数といわれる60議席を割ってしまいました。これにより医療制度改革法案成立は極めて困難となり、オバマ政権に与える影響は計り知れず、就任1年にして早くも暗礁に乗り上げそうな状況です。

さて、今回の法案が受け入れられない理由は何なのでしょう。公的保険の新設や妊娠中絶問題のように賛否両論に分かれる点があることに加え、製薬会社や民間保険会社などが活発なロビー活動を行っていることが挙げられますが、最も重大なのは国民の意識と考えられます。

自由と自己責任、競争原理による発展を国是としてきたアメリカでは、無保険者の存在を解消するといった大義名分があるとはいえ、個人の問題である健康に政府が口をはさむことが許せない、といった考え方が

浸透しているようです。また、不十分とはいえ無保険者達はそれなりに救済されており、巨額の財政赤字があるのだからもっと他にすることがあるだろう、という考えも少なくないとのこと。

わが国では半世紀におよぶ国民皆保険制度は国民の間に定着してきました。しかし、近年その医療が音を立てて崩壊する様子を国民は見ることとなりました。アメリカを反面教師として古来からある「困ったときはお互いさま」の精神でこの難関を乗り越えたいところですが、診療所の再診料引き下げが公表されるなど、医療再生のキーマンである先生方が逆に追い込まれる有様です。その点を肝に銘じ、小柴理事長のもと一層努力いたしますので、よろしく願いいたします。

